

# 図書館かがわ

香川県立図書館報 第97号

発行日 2012.10.1

Library Kagawa

ISSN 1344-5464

県立図書館の書庫には100万冊の本が収納できるようになっています。



普段は入ることのできない書庫を見学中です。



利用者用端末の使い方を説明中です。

この機械で図書館にどんな本があるかや、本の置いてある場所を調べることができます。



## 「チャレンジ！楽しい調べ学習」を開催しました。

平成24年7月23日（月）に高松市図書館主催「高松市 図書館を使った調べる学習コンクール」の協力事業として、高松市内の中学生を対象に「チャレンジ！楽しい調べ学習」を開催しました。

当館司書が調べる学習コンクールの作品のまとめ方、図書館の利用方法、本の背ラベルの仕組みや並び方、百科事典の引き方等の説明を行った後、公募で集まった25名の中学生が、図書館の本棚に並んでいる資料の中から、オリンピックの歴史、香川県の特産品、伊能忠敬や聖徳太子などの歴史上の人物、植物の生態など各自が決めていたテーマにあった資料を熱心に調査しました。

## 「なんがでっきょんなー?」① ～蔵書点検～

このコーナーでは、利用者の皆様からよく寄せられる疑問・質問にお答えします。  
第一回目は、一番よくあるお問い合わせ、「蔵書点検」です。

蔵書点検とは、図書館で所蔵している資料があるべき場所に収まっているかどうかを確認し、行方不明のものがいないか点検する作業のことをいいます。一般企業の棚卸しに相当する作業です。

香川県立図書館には91万点近くの資料があり、毎日多くの皆様にご利用いただいております。蔵書点検は、館内の資料を6つのグループに分け、年2回、3年を掛けてすべての資料を点検するよう計画を立てています。

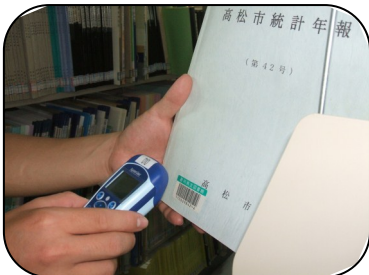
今年度は、6/4(月)から6/8(金)までの日程で第1回目の蔵書点検を行いました。  
手順を紹介します。

### ① 配列修正



まず、間違った棚に戻された資料がないか、いつもより念入りに書架整理をし、分類番号順に並べる作業をします。

### ② 書架にある資料の所在確認



本に貼ってあるバーコード(資料番号)を、ハンディターミナルという機器で一冊一冊読み取っていきます。

### ③ 行方不明の資料の搜索



集めたデータをコンピュータに転送し、配架場所違いの資料、所在不明の資料の一覧表を作り、この一覧表を基にして、配架違いの資料は正しい場所へ戻し、不明資料は、再度館内搜索を行います。

今回の点検結果は次のとおりです。

点検資料数	128, 123冊
不明資料	22冊
前回不明だった資料の発見	9冊
配架場所違い	33冊

蔵書点検中は、棚の中で図書を移動させないようにしておく必要があります。このため、作業にかかる期間を休館とさせていただいています。できるだけ皆様にご迷惑をおかけする事のないよう努力していますが、図書館を快適に使っていただくためには欠かせない作業ですので、ご理解とご協力をお願いします。

## この本おススメです！

～図書館の本棚から、ピックアップ～

「東京バンドワゴン」シリーズ  
 小路幸也／著  
 (集英社) 2006. 4～  
 (請求記号：9136/S413/6 など)



ご相伴にあずかりたくなる朝食シーン

舞台は古本屋（カフェも併設）、古本にまつわる謎を解決してゆくシリーズです。設定だけで手が伸びるのは司書の性(さが)なのかも（笑）。

明治から続く古本屋「東京バンドワゴン」の店主は79歳。一人息子は伝説のロッカーで(60歳!)、家にいたりいなかったり。なので、店やカフェは3人の孫が手伝っており、嫁や子どももいるので、つまりは今時珍しい4世代同居の大家族です。

東京の下町で暮らすこの大家族に、個性的な常連さんやご近所さんが加わって、ちょっとした謎解きが始まります。

連作短編集で、ほぼ毎回のどかな朝食シーンがあり、ほとんどセリフだけで進行します。大家族(+その都度加わるお客さん)の会話だけ続くのに、誰と誰が話しているのか、ちゃんと判るんです！決してごちそうではないけれど、匂や家族構成を意識した朝食の献立を見る度、「ああ、私もご相伴にあずかりたい」と思います。

作者の小路幸也は他にもたくさん小説を書いています。この作品は珍しくシリーズ化していて、現在までに7冊(外伝も1冊)刊行されています。心が疲れたな、しんどいなと思ったときに読みたくなる作家です。

このシリーズは昭和のホームドラマを意識した作品だそうで、「懐かしいな～」と感じる私は昭和の人間なのですね。

「田辺聖子の古事記」  
 田辺聖子／著  
 (集英社) 1986. 1  
 (請求記号：9108 W1 1-1)



「古事記」編纂  
 1300年目

今年、日本最古の歴史書・文学書である「古事記」が編纂されてから、ちょうど1300年目にあたります。この節目の年に、「古事記」を読んでみませんか？

古典にあまりなじみのない方にもおすすめなのが、この本です。小説家の田辺聖子さんが、単なる現代語訳ではなく、難しい言葉や地名にはさりげなく説明を入れながら、美しい日本語で語っています。おかげで、とてもスムーズに読み進めることができます。天から下りてきた神が敵と戦い、地上の娘と結婚し、国作りをしていく不思議な物語は、壮大で面白いものです。

たとえば、絵本などでよく知られた「いなばの白うさぎ」。心やさしい大国主神（おおくにぬしのかみ）がうさぎを助けるお話、と聞いていましたが、実はその続きがいろいろあるのです。

大国主神（おおくにぬしのかみ）は美しい姫と婚約しますが、意地悪な兄に殺されそうになります。逃げていった先で、別の姫に出会ってすぐ恋に落ち、結婚を許してもらうために次々と試練を受けます。切り替えが早すぎるんじゃないの？と書いてしまいましたが、神話ならではの展開の早さもまた楽しいところです。

歴史や恋愛小説が好きな方、不思議なお話を読みたいという方は、きっと楽しめると思います。古代人の暮らしを想像しながら、読んでみてください。



# 初任者研修を開催しました



香川県図書館協会（県立図書館と県内の市町立図書館などで構成）では、毎年、人事異動などで図書館に初めて勤務する職員、あるいは経験年数の少ない職員を対象に初任者研修を行っています。

今年も6月20日（水）～22日（金）の3日間を通じて、19名が参加し、県立図書館職員を講師に「図書館とは何ぞや」を学びました。

初日は、図書館の歴史に始まり、関係する法律や考え方・理念、そして図書館が提供するサービスについて、2日目は、資料の収集・整理方法、児童サービスについて、最終日は、調べ物や調査・研究のお手伝いをする参考調査業務、著作権について学びました。

短期間で専門的な知識を吸収するのは大変だったと思いますが、研修後に行ったアンケートから、図書館に対する共通理解の深まりと快適な図書館づくりへの意欲がうかがえます。

参加者の多くの方が4月に図書館に異動してきて、日々の業務のなかで不思議に思っていたことが明確になったようです。

この研修が、利用者の方への図書館サービスの向上につながることを願っています。



## 読書週間 ～その歴史から～

昭和22年、終戦の2年後、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と決意をひとつに、出版社、取次会社、書店と公共図書館が力を合わせ、さらに新聞・放送のマスコミ機関の協力のもとに、第1回「読書週間」が開催されました。

第1回の「読書週間」は11月17日から23日。これは11月16日から1週間にわたって開かれるアメリカの「チルドレンズ・ブック・ウィーク」になったものです。各地で講演会・図書に関する展示会が開かれ、その反響は大きなものでした。「一週間では惜しい」との声を受

け、現在の10月27日から11月9日（文化の日をはさんで2週間）となったのは、第2回からです。

それから60年以上が過ぎ、「読書週間」は国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民」の国となりました。その一方、物質生活の豊かさに比べ精神生活の低迷が問題視されている昨今、論理的思考の基礎となる読書の重要性は、ますます高まっています。

本年の「読書週間」が、皆さん一人ひとりの読書への関心と、読書習慣の確立の契機となることを願ってやみません。



編集・発行 香川県立図書館

〒761-0393 高松市林町2217-19（香川インテリジェントパーク内）

TEL 087-868-0567 FAX 087-868-0607

<http://www.library.pref.kagawa.lg.jp/>